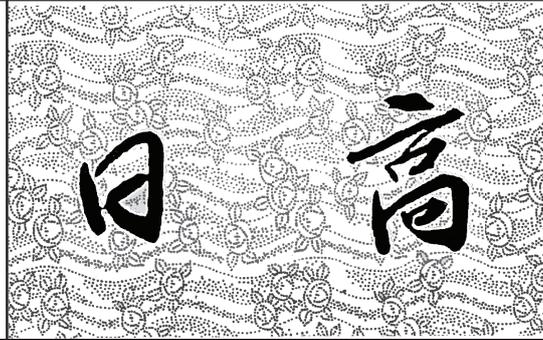


日高地区概況

令和5年3月1日現在
世帯数 9,397
人口 21,692
男 10,583
女 11,109

※この概要は日高支所管内の統計による



第211号

発行日 令和5年3月20日
発行 日高学区市民自治会
http://www.net1.jway.ne.jp/hitaka.com/
代表者 志賀 勝弘
編集責任者 木田 源一
印刷 おぎつ印刷

高く舞い上がれ 日高の炎
昔遊びに久しぶりの歓声 日高鳥追い祭り



歓声上げて遊ぶ子供たち

1月14日、日高交流センター広場で日高学区市民自治会主催の「第29回日高ふれあい鳥追い祭り」が開催されました。
この2年は、コロナ禍のため中止になったり、どんど焼きのみの縮小開催になったりしましたが、今年も3年ぶりに多くの催しが再開されました。餅つきや模擬店、子ども

たちの昔遊び、繭玉飾り、福祉のお店も出店、今年もストリートオルガンも飛び入り参加し、子どもたちの歓声が響き、久しぶりに活気あふれる日高を元気づける催しとなりました。
広場の中央では、消防の第5分団も控える中、正月飾りや、昨年お世話になったお札などをお焚き上げする「どんど焼き」の炎が燃え盛り、五穀豊穡、家内安全、健康増進などを祈りました。



燃え盛る日高どんどの炎

まちづくり活動の進むべき方向を探る 日高まちプランアンケート実施中

近年は、地域から子どもたちや働き盛りの盛年層の姿が減り、高齢者の姿ばかりが、ますます目立つようになりまし

かれる中で、現況にあった地域の連帯や協力の在り方についても問われています。
そのような中で、地域の全住民を会員とする市民自治会は、町内会役員の負担軽減、不公平とされる町内会会員からの市民自治会会費の徴収の廃止、地域の連帯づくりのイベント開催な

ど様々な事業に取り組んできました。
市報や市民自治会報の全戸配布を契機に、町内会非加入の世帯の皆さんを含めた住民同士が連帯感を持ち、住みよいと感ずるまちづくりをするために、市民自治会として、改めて、地域の皆さんの声を聴き、活動の評価を受けながら、今後目指すべきまちづくりの姿、活動の方向性を探るために、「日高まちプラン」アンケートを実施しています。

まちづらんアンケート 至急回答を！

アンケート用紙は、2月の市報配布時に、全家庭にお配りしています(締切り3月末)。市民自治会活動の大切な参考資料とします。
ので、まだ未回答の方、ぜひご協力ください。配布時に添付した封筒に入れて郵送するか、交流センターに持参してください。アンケート用紙は、日高交流センターにも用意してあります。

行事予定

(3月21日～5月20日)

日高学区市民自治会

○再生資源拠点回収(日) 3月26日 4月23日

日高交流センター

○市民自治会総会 4月15日(土)

午後1時半から

日高学区高齢者クラブ連合会

○総会 4月14日(金)

日高交流センター

○グラウンドゴルフ大会 5月17日(水)

日高交流センター

日高文化協会

○総会 4月22日(土)

○書道・絵画展 5月19日(金) 21日(日)

日高交流センター

役員会報告

2月6日の役員会で次の事項について協議しました。
*日高まちづらん2024アンケート配布
*本部・支部役員会
*5年度の市民自治会会費
*5年度総会の準備

令和5年度 市民自治会総会案内

4月15日(土) 13時30分
場所: 日高交流センター
新しい年度の事業計画、予算を決める大事な総会です。必ず出席してください。

総会出席対象者

本部役員、新・旧正副支部長、新常任委員、新自治委員

自分らしく生きるために

文化講演会開催

3月5日、日高文化協会主催、終活講座「自分らしく生きるために」の文化講演会が日高交流センターで行われました。

講演は一般社団法人ライフ・ケア・ひとたち副会長、日立女性フォーラム会長や終活上級カウンセラーとして幅広く活躍の中川雅子さんを講師として招き、70名の参加者で開催しました。

講演内容は、近年の少子高齢化社会において家族や周囲に負担をかけずに人生を終わりにするための準備をする、今話題の「終活」についてです。「終活」が注目されたのは東日本震災で突然に愛する家族を失い戸惑い、人生の終わりが急に来た時の準備に何が必要であるかを知らされたか



身近な終活の課題を丁寧に解説されました

からです。具体的には身の回りの整理、介護や遺言、財産の相続、葬儀、お墓のことが大切と話されました。

これらのためには、自分の生きた証や個人情報となる交友関係のリスト化、遺言、金融財産や不動産、そして終末期医療・介護、葬儀やお墓の希望などについて自分の考えを、「エンディングノート」に纏めて、家族に負担をかけないよう伝えることが大切だとのことでした。

また、元気なうちに自身自身で身の回りの整理を行い、思い出を振り返る楽しい時間を過ごす機会ともなり、お墓や葬儀の生前契約などでスッキリとしたエンディングを迎えられます。

終活をすることは、人生の終焉を考えることを通じてこれまでの自分を見つめて直し不安な気持ちや心配事を取り除き、これからの人生を自分らしく生きる事に繋がります。

自分らしく生きるために「今までの私」「明日からの私」を一文で表現する課題では、(笑)で(楽)、(気力)などの個性に満ちた発表がありました。笑えて健康で楽しく、そして少しの蓄えを忘れずに、元気に100歳目指して過ごせることが大事との結びに講演会は盛況のうちに終了しました。

参加者の多くは中高年齢の方々に、最後は家族に面倒かけずにあの世に行くの考える良い機会になった。あるいは、終活にエンディングノートを取り纏める事は、残された家族に迷惑をかけないなどの大切さを改めて感じました。



体験を踏まえた講演内容です

『日高健康教室ピンクレディ』

ひたち元気アップ賞(優秀賞)!!

2月15日「日高健康教室ピンクレディ」は、令和4年度ひたち元気アップ賞に応募し、多年にわたり健康づくりに取り組んでいる団体として『優秀賞』を授与されました。

この健康教室はインストラクターのもと50代から80代の方が16年にわたり、ラジオ体操、新日立音頭、ステップ台そして、月ごとにダンベル、マットなど多種多様な運動を取り入れ健康維持・増進に動いています。またピンクのユニホーム

を着用し「ピンクレディ」として日高学区三世代スポレク祭に参加し、「新日立音頭」を披露するなど地域のイベントへも積極的に参加しています。

最近では第一回日立市長杯ラジオ体操コンクールに出場し準優勝するなど多方面で活躍しています。これらの取り組みなどが評価され受賞されました。参加者は、「毎週健康教室を楽しみにしています。肩こり、腰痛、膝痛などの改善や予防ができ、運動後



健康の秘訣はこの笑顔!!

体が軽くなりストレスも解消され爽やかです」と長年取り組んでいる効果を話されていました。

小さな輪 大きな輪

「ひまわりクラブ」



ひまわりのように明るい皆さん

毎週月曜日の午前9時30分から午前11時までの間、日高交流センター二階から素敵なりズミカルな音楽に合わせて楽しい笑い声が聞こえてきます。ひまわりクラブは、指導員のもと、ボールやロープなどを用いて体を柔らかくするストレッチ運動をしている女性会員の健康体操クラブです。クラブ活動は20年前から有志の方々が指導員の先生を招いて開始したそうです。現在の会員は20名で、60年代から70年代の懐かしい音楽に合わせて指導員のもと楽しく体全体を動かしながらストレッチ運動を楽しんでいます。会員の皆様は、毎週月曜日が待ち遠しくひまわりクラブが若さの秘訣にもなっていると話されました。

最近では会員の皆様がすこし高齢化してきており、新しい会員を迎えて「楽しく健康体操をしましょう」とお待ちしているそうです。(阿部 一夫)

◆◆会員募集◆◆

「ひまわりクラブ」

音楽に合わせてリズムカルに！ボールやロープを使ってストレッチ

一緒に健康体操しませんか!! 女性会員募集しています。

日時：毎週月曜日

9時30分から11時

場所：日高交流センター

2階1号室

その他：バスタオルと飲み物をご持参ください。

服装は運動のできる軽装で、運動靴でお越しください。

【連絡先】

内山さん ☎ 4219244
志賀さん ☎ 0901
810612239

みんな健康になろう

日高学区のシルバリーハビリ体操教室

シルバリーハビリ体操教室は、65歳以上の高齢者を対象に介護予防や健康増進を目的とした、日高学区市民自治会社会福祉委員会の高齢者支援事業です。

午前中は女性教室会員42名、午後は男性教室会員17名が登録し、10名の指導士のもと月2回交流センターにて活動しています。

シルバリーハビリ体操は、



健康紙芝居を取り入れました

障害学と運動学をもとに考えられた体操で、道具を使わずいつでもどこでも一人でもできるそうです。腰肩膝等の痛みを予防、失禁予防、嚥下障害予防、転倒予防、腕の筋肉を強くする体操他様々な体操があり、指導士と一緒に取り組んでいます。毎年3月には、女性教室男性教室合同で交流会を開催し、1年間の総まとめを行っています。

また、令和5年度もシルバリーハビリ体操指導士の3級養成講習会が、水戸市の県立健康プラザで開催されます。自身の健康のために受講される方、指導士としての活動を視野に受講される方、日高交流センターにパンフレットがあります。

日高学区のシルバリーハビリ体操教室で指導士として活動したい方は、受講前に、社会福祉委員会までご連絡ください。

☎43-1250

安心、安全、パトロール 日高のおまわりさん

終わりの見えないコロナ禍で、なるべく外出を控えている住民に、日高交番石田祐二所長と所員が真夜中でもみんなが安心できるように

にと、昼、夜関係なく安全を守るために、管内のパトロールを行っています。

昨今二七電話詐欺、闇バイト強盗など世間を騒がせている事件が多く、テレビ、新聞などで報道されています。所長自ら高齢者が集う地域のお元気クラブや事務所等へ出向き、講話（二七電

「青少年健全育成のための市民の集い」で日高小学生が受賞

日立市青少年育成推進会議が募集した絵画・ポスター部門において日高小学校の左記の生徒4名の作品が受賞しました。

- 5年 加古瑠莉那(りな)
- 木田 橙海(とうみ)
- 3年 石橋 愛織(まお)
- 2年 木田 葵夏(まりか)

また、このうち加古さんの家庭の日のポスターは日立市の最優秀となり、茨城県でも最優秀賞を受賞しました。



話詐欺、オレオレ詐欺防止、交通事故防止、雪道での注意、押し売り、押し買い)で対策も含め注意喚起を促しています。

また反射板、だまされないノートなどを配布しています。なお相談事、交番員に気軽に声をかけてくださいと所長は話しました。

ふるさと 郷土 ひたか (22)

首なし地蔵

小木津から折笠に向かう道の左側に2体のお地蔵さまが立っています。

いつもそこは綺麗に掃き清められ、お揃いの赤い帽子と、前掛けが掛けられ、お花も供えられています。

お世話をしている近所の山中さんと、鈴木たみ江さんによると、お二人より以前からお世話をしていた方がいたそうで、地域の方々が分かかります。



お地蔵さんを世話する山中さんと鈴木さん

ふるさとのおむかしばなし (ひたか民話の会編)

昔萩津の里にそれはそれは人も羨む程の美しい娘さんがおったと、その娘さんが十八歳の春を迎えた時、ふとした事で城主の命に背いた罪に問われ処刑されてさらし首になった。

里人たちは、娘さんの死

文藝ひたか

日高短歌会



寒い宵着物に着替えてさつそうとしなやかに舞いし舞こと始め 礎 暁子

卯年明け輝く海面の穏やかに黒点動くはサーファーなるや 石井 正子

詠草を毎月楽しみにしていしに上手なあなたの歌にあえない 太田 初枝

この母に『くどき上手』とふ酒を倅持ちちくる喜寿の祝いに 小野 勝子

仏壇の遺影との会話多くなる父より十歳(とお)も越えしわれだが 小野 白梅

カタールで頂点きわめたアルゼンチン疲弊のもとに沸きたつ群衆 尾羽 千恵

パン売り場に三角パンを見つけた姉の思いで一买买くる 川井けい子

今年また健康願ひて沖遠く昇りくる陽に両の掌合はす 久保田絹枝

冬晴れに洗たく物は風のなか暴れ竜のごと一日中を 小池 久枝

年明けてあつと言う間に二週間過ぎてしまえり締め切りせまる 清水恵美子

枯れはてた玉あじさいに白菊を添えればたちまちブラチナの花 村尾 君代

を哀れに思ったが皆貧乏でどうすることもできなかった。そんな時寺の住職が娘さんの霊を慰めようとお堂を建て、中に石の地蔵を安置したんだそう。

里人たちは、毎日のようにその地蔵に手を合わせておつた。ところが間もなく火災に逢いお堂は焼け、地蔵もまる焦げになってしまった。そればかりでなく、地蔵さまの首がなくなつていた。里人たちはみんなで首を探したが何処にも見当たらなかつた。

首を見つけてもすぐに落ちてしまうので人々はこの地蔵さまを「首なし地蔵」と呼ぶようになったんだと、翌年、里はききんに見舞われ、次の年は流行病(はやりやまい)に悩まされたんだと。「これは地蔵のたんだかも知れない」とみんなで黒焦げになった地蔵さまを洗い清め、別のところに移して供養したらそれからと云うものは悪病、災難がなくなり田畑の作物も良く実り、里人たちの暮らしも楽になったと、里人たちはこの地蔵さまを自分たちの守り本尊として崇め、道行く人の信仰も厚く線香の煙の絶えることはなかつた。

激甚災害に備えて 日高中で避難所開設訓練実施



段ボールでベッドを組み立て

東日本大震災のような激甚災害を及ぼす大災害を想定して、2月14日、日立市の主催で日高中学校の体育館を会場に避難所開設訓練が実施されました。日立市と学区自主防災組織との連携強化および運営体制の確認を目的として行われたものです。訓練には日立市役所の担当職員、日高学区、田尻学区の自主防災会、中学校職員の約40名が参加しました。

倉庫内には、いざという時に備え、食料、寝袋、プライバシー保護の間仕切りテント、段ボールベッドなど数多くの機材が保管されていることを確認しました。資機材の取り扱い訓練後は、避難所レイアウト確認訓練です。前述の間仕切りテントを体育館内に組み立てセッティングし段ボールベッドを配置します。配置は整然と行い、通路の確保などを考慮しました。避難者を受け入れる際は体調が悪い方への配慮や、感染症予防対策を考慮した受付体制が重要であること、避難所開設には、リーダー的な存在の人が全体の取りまとめを行うことが、スムーズな運営に重要であると強く感じました。

あの人 この人

齊藤さい子さん
日高町
(88歳)



詩吟とともに半世紀

小木津生まれの齊藤さんは、長年にわたり小木津の歴史を見てこられました。終戦後、この一帯は杉苗の畑が広がる地域で、育苗の仕事に携わる人も多くいたそうです。

また、日立電線の日高工場ができてからは人口も増加したため、小木津駅から海に向かう現在のゆりの木通りには、生活に必要な商

品を扱うお店が軒を連ね、少し離れた地域からも買い物にくる人々が多くなりました。そこで長年金物屋を営んでこられました。

このゆりの木通りという名称は、今から半世紀近く前の昭和54年、当時の日上市役所が行った道路愛称の名づけの募集に、さい子さんが応募して決まったそう

です。倉庫内には、いざという時に備え、食料、寝袋、プライバシー保護の間仕切りテント、段ボールベッドなど数多くの機材が保管されていることを確認しました。資機材の取り扱い訓練後は、避難所レイアウト確認訓練です。前述の間仕切りテントを体育館内に組み立てセッティングし段ボールベッドを配置します。配置は整然と行い、通路の確保などを考慮しました。避難者を受け入れる際は体調が悪い方への配慮や、感染症予防対策を考慮した受付体制が重要であること、避難所開設には、リーダー的な存在の人が全体の取りまとめを行うことが、スムーズな運営に重要であると強く感じました。

で、その記念盾がお宅に保存されていました。これまで、手芸、西・和洋料理、生け花と多彩な趣味に取り組んでこられました。中でも詩吟と詩舞は半世紀を超える経験があり、詩吟の霞会本部からは最高位の称号と、表彰を受けられました。現在も地元の仕事への出演の他、今年3月には水戸で開催される詩吟の全国大会にも出場されるとのことでした。

充実した日々を過ごされている一方で、昔を知る友人も徐々に少なくなり、かつての地元愛が薄れてきたように感じるのが寂しいそうです。(田所剛)

日高交流センター広場の「シダレザクラ」は昭和の後期に市民自治会が植えた桜で、日立紅寒、ソメイヨシノに続き時期的には一番遅く華やかに咲く桜です。しかし、当初7本あった樹も次第に勢いがなくなり3本が枯れ、残っている4本も元気がなく弱ってきている状態です。

シダレザクラの植えてある場所は、旧日高小学校の校庭だったところで、水はけを考慮し地中に砕石土砂が敷き詰められており、桜の根が張れないことや肥料不足等が樹勢の衰えの原因と推定され、専門家からは土壌の改良と施肥と適切な管理が大切と指摘されました。日高学区市民自治会では、日立市からの環境温暖化対策補助費を利用して、4本のシダレザクラの樹勢回復を願う造園業者による環境改善と施肥などの工事を、向こう3年間で行うことになりました。



樹勢回復の作業です

「シダレザクラ」の 樹勢回復工事が始まる

東連津

青少年育成部幹事
上妻 孝行

私は1月14日の鳥追い祭りで、例年と同じく豚汁づくりを担当しました。祭りは久しぶりに従来のスタイルで開催されましたが、これまで行われていた片付け後の反省会(懇親会)はありませんでした。会場設営から祭りの運営、片付けまで頑張った後、出来立てのお

頑張った後の お楽しみもぜひ

餅に舌鼓を打ちながら酒を酌み交わし、自分が作った豚汁を食べるひとは、祭りに参加する楽しみのひとつでしたので、少し残念でした。5月にはコロナの扱いも緩和される見込みなので、来年度はこれまで取りやめていた様々な行事が復活すると思いますが、頑張った後のお楽しみもあわせて復活してくれると嬉しいなと思います。

街をきれいに クリーンアップデー

2月12日に学区内の全世帯が参加して日高学区一斉に街を綺麗にするゴミ拾いの活動が行われました。指定の場所に集められたごみは、環境部員が回収し、交流センターで分別、トラック2台分になったごみを清掃センターに搬入しました。また当日は、クリーンア



集めたゴミの分別作業

編集後記

別れと出会いの春が来た。本来であれば明るい希望を感じる季節であるが、長引くコロナ禍や異国での戦争もあり、閉塞感の中で生活している人も多いのではないかと。地域の高齢化、少子化で自治会活動の衰退が全国的に進んでいるようだが、こういう時こそ自治会の存在意義があり、地域的情報を皆さんにお伝えできる広報紙でありたい。(田所)